

【第2回 トークセッション】

日時：令和元年11月14日 17時～19時

場所：関西支部事務局

出席者：小林敬政（大建設計 大阪事務所 企画設計室）
田川彰（日積サーベイ 大阪オフィス システム開発部）
友井智子（大和ハウス工業 神戸支社 近畿見積部）
西山尚希（安井建築設計事務所 大阪支店 設計部）
原彰宏（東建築積算士事務所）
半田寛樹（竹中工務店 大阪本店 見積部）
松下直子（安井建築設計事務所 大阪事務所 構造部）
三谷智（アイ積算）

司会：渡邊浩文（日本建築積算協会 関西支部 副支部長）

※敬省略

1 わたしと建築（自己紹介を兼ねて）

西山 意匠設計をしています。すべてに意味のある建物、タイトルのある建物、わかりやすい建物を設計したくて頑張っています。沖縄に3年駐在し、最近帰阪しました。

三谷 11歳の頃には父が積算事務所を起こしていたので、直接話があったわけではないですが建築学科へ進学し、卒業後は同業他社で5年修業した後、現在の会社へ入社しました。

友井 子供の時に住宅広告を見て自分の部屋はここだな～と夢を広げ、実家が製材業をしていたこともあって、木材に興味となじみがあり建築系研究室のある農学部へ進学しました。卒業後は地元の工務店へ就職し、営業事務兼設計・積算、施工物件の補修工事などを経験しました。住宅メーカーへの転職し、CADオペレータ兼見積業務を担当。訳あって退職後ドイツ放浪の旅に行き、そこで建築に興味があることを再認識。帰国後、再度建築での就職をめざして、現在の会社に積算技術者として入社。周りの人に迷惑をかけながらも、やりがいを感じて仕事をしています。

松下 構造設計を担当しています。構造設計の面白い点は、工業系・医療系など用途を問わずできるのが特徴。力学や構造の話とデザインの両方を楽しめるのも良いです。構造設計はいい意味でマイペースにできるので、自分に合っているかなとも思います。積算協会のトークセッションなので、減額案で良いアイデアがあれば持って帰りたいなと思っています。

田川 私は建築出身ではありません。数学が大好きで数学者を目指していました。新卒で中学校の数学教師となり、様々な辛いことを経験しながらも周りの人に助けられ、コミュニケーションの大切さを味わいました。数学を生かせる仕事で転職を考え、プログラミング・ソフト開発という仕事に出会いました。積算はまだまだ未熟ながらも最近では大学で非常勤講師として積算を教えることもしています。

半田 東京出身で、入社1年目に大阪に来てからずっと大阪です。子供のころの夢は親の背中を見て学校の先生でした。高校で地学に興味を持ち、土木に進もうかと思いつつも、建築学科へ進学しました。地図に残る仕事がしたいと思い建設会社へ入社し、入社後は作業所で施工管理を経験、その際に見積の大切さを感じ、2016年から現在の見積部に配属されました。

小林 大学院時代にスイスに2年間留学しました。スイスの建築家のピーターメルクリに憧れ、直談判して授業を受けさせてもらいました。卒業後は生まれ育った関西で建築に携わりたいと思い、現在の会社へ入社しました。入社後は企画設計室にてプロポやコンペ案件の担当をしています。

原 子供のころにテレビ見た外国の建物が頭に残り、高校卒業後は建築デザイン系の専門学校へ進学。卒業後は設計事務所で2年間勤め、その後畑違いの広告代理店に転職。5年務めた後、30歳を超えてから転職を決意。建築に携われればと思い、積算に辿り着き現在の会社に入社しました。構造積算担当として頑張っています。

2 転職経験があることで思うメリット。

司会 転職経験のある方もおられますが、転職経験によってメリット等ありますか？

友井 今の自分の自信につながっている部分でもありますが、営業事務の経験から、営業の仕事や工事発注の段取りが把握できています。戸建て住宅での経験で、設備と建築の干渉等にも気が付けるようになっていきます。

西山 転職経験がないので比べる対象がないんですが、働きやすいと思うし、いい会社だと思うけど、1社しか知らないメリットは感じられないですね。かと言って転職は大変だと思うので(笑)

3 これだけは自信があること。

三谷 同業他社での経験があるので、会社内で「当たり前」と言われている内容が、それは本当に当たり前なの？と、気付く事ができます。

田川 私も転職で即戦力として中途採用していただきましたが、それに対するプレッシャーはすごく感じますね。前職で激務を経験しているので、メンタル的にはかなり鍛えられたと思います。

半田 新入社員の最初1年間は同期と寮生活をするので、同期との結束は固いし、相談事も気軽にできるのが良いですね。現場ではデジタル化が進んでいるけど、内勤を見ると案外アナログな部分が多かったので、自分で様々な自動化ツール等を作成して、みんなの業務効率化を進めてきました。

松下 構造設計は、一見話しづらそうな人が多いですが、どちらかと言うと明るめなキャラだと思っているので、職場を明るくするタイプかな(笑)

原 前職、前々職で、様々なタイプの人と話す機会が多かったので、相手のタイプに合わせて、相手が話しやすい話し方はできているかなと思います。

小林 海外にいたこともあってか、ポジティブに考えられるタイプです。積極的にコミュニケーションをとる事も出来る部分が強みですね。

4 コミュニケーションの取り方

司会 近年は様々なツールが開発されて、顔を合わせなくても意思疎通ができるよう

になってきましたが、皆さんはコミュニケーションをどのように思い、どのような取り方をされていますか？

西山 新入社員に話をする機会があったときに、仕事でうまく進むかどうかはお互いの共感ができているかが重要だと話をしました。上司、同僚、部下、お客さん、メーカーさんなどシーン毎にアドバイスをしましたね。

ちなみに、電話とメールはどちらが良いんでしょうかね？直に顔を合わせることも含め。メールだと履歴が残る。メールは意味が伝わりにくい。電話だと伝わりやすいけど、相手の時間を奪うこともある。

友井 送るだけならメール。お願いごとは電話でするようにしています。

松下 言い難い話は先にメールを送ってから電話をしてお願いする事もありますね。

司会 建設会社では部署がはっきりと分かれていると思うので、大変ではないですか？

半田 他部署とのコミュニケーション自体はうまく出来ていると思うけど、今後の自分の課題として、受け手としての動きが多い見積部ですが、お金のことは見積部しかわかっていないので、それを生かして他部署へアクションしていきたいと思っています。

友井 他部署が近くコミュニケーションはとりやすい環境ではあるけど、他部署への確認などは、疎かにすると痛い目にあうこともあるので忙しい時は特に気を付けています。

田川 後輩からの質問に答えてあげる等、社内とのやりとりが多い。社内は20代と50代が多く、中間の3～40代が居ないので、その年代のコミュニケーションの課題はあるかもしれないですね。

三谷 コミュニケーションとは少し違うけど、地獄耳を生かして社内の様子を伺っている。フォローが必要そうであれば声を掛けるようにしています。

原 社内で質問したい時は様子を見ながら空気を読んで声を掛けるようにしています。お客さんとのやりとりは、相手のタイプを読み取って、メールと電話を使い分けていますね。

5 BIM・ICTについて（ワークスタイルについて）

司会 様々なツールが増え、自身の生活環境等も考えながら、自分の働き方はどのように変わっていく、もしくは変わったと思いますか？

小林 日々の電話やメールの対応で気が付いたら夕方になっていることも多い。自分の検討時間を増やすために少しでも時間短縮することに気を掛けています。資料作成方法を変えて効率化を図っているが、なかなか効果は見出せていないのが現実ですね。意匠設計は手を動かさずに考える時間が必要だし多い。効率化と言う時代に反する部分もあるのが難しいです。

西山 結婚・子どもが産まれたこともあり、最近は土日確保するために休みを楽しむにして平日頑張っている。設計はやるといつまでもできてしまうけど、どこかで止ま

らないといけないと思う。決して仕事を疎かにするわけではないです(笑)

松下 入社5年くらいまでは時間を気にすることなく仕事をしていました。残業を気にせずに働けることも大事だと思います。結婚・出産後は、家族にかける時間が絶対なので、限られた時間の中で仕事をやりくりできるようになったと思う。会社が在宅勤務を認める流れが出来たこともあり、来年からは在宅勤務を目指しています。

司会 在宅勤務で考えれば、積算は特に導入しやすいのでは？

三谷 雇う側としては納得しにくいかなと。外注対応で良いのでは？とってしまう。でも、時代の流れから認めないとダメなのかなと思う部分ももちろんありますが。

半田 ノートPCやiPadを使って、会社としてもテレワークを試験的にやっている。例えば台風の時にみんなで家でしてみようといったような実験をすれば良いのには思いますね。

司会 先の方の話題のコミュニケーションの観点で言えば、テレワーク・在宅勤務等で影響することなどどうですか？

半田 スカイプやFaceTimeを使ってほしいの事はカバーできると思う。僕自身はメールで済む内容はメールで良いと思っているので。顔を合わせて話をするのももちろん必要ですけど。

小林 相談事やお願い事するときは顔を合わせてすべきかなと思いますが、各種ツールを駆使して時間短縮につなげることも出来るのは良いと思います。

松下 在宅勤務したいけど、私は会社に居たいタイプではあります。しっかりと話をして仕事をしたいと思うので、出社と在宅をうまくやりくりして、例えば午前中は会社、午後は自宅というのもアリかなと思う。

6 仕事モードのオン・オフ

司会 ワークスタイルの変化も関係しますが、仕事モードの頭の切り替えやリラックスマ法などはどうしていますか？

原 基本的には会社にいるときはオン、出たらオフにしている。タバコ休憩でリラックスはできるし、ふとアイデアが思いつくこともある。1日のノルマを自分で決めて、クリアすれば会社を出てオフにしちゃうようにしていますね。

田川 これが一番苦手と言うか、家に帰っても仕事の事は考えてしまいます。仕事＝趣味に近い感覚はありましたが、結婚してからは家ではオフに見えるようにしています(笑)。お風呂に入っているときは純粋にリラックスできますね。

友井 21時で強制的に退社になるので、ホットヨガに行って気分転換をして帰宅することもありますね。

半田 会社メンバーでフットサルをしています。

原 週末にたまにジョギングをしています。

松下 私は仕事スイッチと母スイッチがあつて、家に帰ると母スイッチを全力でオンにしています。子どもを寝かせたらやっとオフにできる感じですね。

7 ほかの職種に聞きたいこと

司会 普段なかなか他の職種の方に聞く事が出来ないことを、この機会に聞いてみたいことありますか？

三谷 意匠設計の方は、夢とロマンに溢れているんですか？

小林 設計でやりたいことがあつて、それを目指すから、多少の辛さはカバーできるのはありますね。旅行に行つてるときも気付けば建築を見てしまっている。逆に積算の方のやりがいはどういう部分ですか？

三谷 最終的にはお客さんにありがとう助かった！と言ってもらえるように頑張っていますね。

小林 設計でもお施主さんにカッコイイなつて言ってもらえるのはやりがいありますね。

半田 意匠設計の方にですが、こだわりがあるのは良いと思いますが、そこまでしなくても・・・って思う時もありますね(笑)

松下 意匠設計さんは飾り的な物にこだわりますよね(笑) リブとか増し打ちすごい増えるんですけど！って(笑)

司会 機能だけを追求しちゃうと街並みがなくなってしまうから、周囲の環境や状況を汲み取ってデザインできる人はすごいと思いますね。

西山 小さなこだわりの積み重ねが評価になっている部分もあつて。でも実際、その影響で工事費が膨れたり、他部門に無理をお願いする部分もあるので、ここはコミュニケーションでカバーしていければと思います(笑)

原 計画を始める段階で、予算の振り分けとか、どうして決めるんですか？

西山 意外とお施主さんから予算が聞き出せないことが多い。

松下 規模は言ってくれるのに、予算は言ってくれないから、減額を検討して1層減らすとかも出てくる。

西山 お施主さんとしては予算を言うとその額になっちゃうから言わない傾向にあるのかな。プロジェクト開始時に金額の目途があつてスタートするのがやりやすいとは思ふ。

司会 最初に金額が決まっちゃうと、それしか見えなくなって、合理的な物だけ追及してしまつて、設計をお願いした意味がなくなる気がします。最初はアイデア満載にして、それがあつてのコスト調整をするのが本来の設計なのではとも思いますね。

8 トークセッションに参加してみた

小林 さまざまなバックボーンや知識をお持ちの建築の他分野の方々とお話しすることで、改めて建築は人とのコミュニケーションを通して生み出されるものであることを強く実感しました。また、技術の発展やワークスタイルの変化など目まぐるしく変わって行く環境の中で、時間の作り方など皆さん同じような悩みを抱えながら日々仕事と向き合われていることが分かり、少し安心することが出来ました。この度は大変有意義な会にご招待いただき、ありがとうございました。

田川 はじめは、知識不足の部分もありトークセッションに参加して大丈夫だろうかと不安でしたが、異業種の方々の意見を聞いたり、共通の話題について議論したりする中で、色々な視点からの考え方を知ることができ、勉強になりました。また、このトークセッションは非常に温かみのある雰囲気だったので、有意義な時間を過ごすことができました。今回学んだことを今後の仕事に繋げていきたいと思います。貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。

友井 職種の異なる方、立場の異なる方と意見交換ができ、とても良い刺激になりました。特に私自身も含め、他業種から入られた方が多く、転職する方が様々な経験が出来、また大変だったのではないかと話す話もありましたが、転職経験のない方も業務で取り組まれる経験は多く大変な事もあったのではないかと思います。また仕事を通じて関わる事が在りましたら宜しく願い致します。有難う御座いました。

西山 設計者は建物に入ると上ばかり見ている、コンコンと壁をたたいている、という話しはよくありますが、積算業務をやっていると日常みる建物がお金に見える、積算のし易さ・し難さで見比べる、というエピソードは、建築の関わり方で見え方が違うことに、面白いなと感じました。日頃よく話す同会社の設計部の人とは少し違う視点で会話が繰り広げられるトークセッションは、非常に有意義な時間となりました。ありがとうございました。

原 積算以外の職種の方の仕事に対しての考え方や悩み、建築の仕事に就くに至った経緯等、普段お話をする機会がない方の様々な話を笑いながら楽しく聞く事ができ、良い時間が過ごす事が出来ました。今回のような職種が違う方の話を聞く機会もなくなりましたので、今回のトークセッションで良い刺激を受ける事ができました。短い時間の中でしたが、この経験を自分にとってプラスになるよう今後活かしていければと思います。

半田 普段の業務で社外の人たちと話す機会と言えば、現場説明会や見積説明などで、内容はプロジェクトに関する話ばかりです。

しかしトークセッションでは楽しい雰囲気の中で、みんなが思い思いのことをしゃべるので、友人や同期と話しているような感覚で、仕事への想いや悩み、プライベートについてもざっくばらんに話すことができました。様々な会社・職種・立場の人たちと話ができ、とても楽しい会に参加することができました。ありがとうございました。

松下 最初に全員の自己紹介をお聞きして、その経歴に驚きました。私はというと新卒で入社した会社の同じ部署にずっと在籍しておりますので、色々な会社や業界を経験され、荒波に揉まれてこられた方の強さに感銘を受けました。コミュニケーションの取り方や、やりがいの話、また雇用側の考えなど異なる視点から意見を言い合えて、充実したトークセッションだったと思います。終始和やかな雰囲気です。ありがとうございました。

三谷 この度は、有意義な会に参加させて頂きありがとうございました。普段は仕事上の会話しかしない関係で、ましてや同世代の方々とざくばらんな話が出来てとても貴重な時間を過ごすことができました。職種や立場は多少違えど、同じ建築業界に身を置いている中で、同じような疑問・悩みを持って業務に取り組まれている事にある種の安堵感を覚え、また、その多少の違いからくる視点の違いに大いに刺激を頂きました。またの機会がありましたら、今度は他の社員も参加させたいと思います。